

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190400663), 法人名 (社会福祉法人杜の会), 事業所名 (福井倶楽部), 所在地 (札幌市西区福井4丁目14-18), 自己評価作成日 (平成28年10月20日), 評価結果市町村受理日 (平成30年1月4日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0190400663-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年12月13日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福井倶楽部は民家改修型の1ユニットのグループホームです。居間からの眺望は最高で四季折々の景色や近隣の学校の太鼓の音や花火も楽しむ事が出来ます。利用者様の身体機能や認知能力の低下が著しく進む中でそれぞれのレベルに合った対応を行い出来る限り家庭的な環境の中で安心して過ごせるよう心がけています。町内会・学校行事は積極的に参加し地域の方には大変良くして頂いております。新鮮な収穫物を頂いたりこちらからも行事で作ったおはぎや漬物を差し上げたりバーベキュー行事にお誘いしたり交流しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西区の閑静な住宅地の高台に立地する民家改造の事業所で、居間の大きな窓から見事な景観を満喫できる住環境である。周辺地域とは、長年の経過の中で関係を深めており、収穫野菜や漬物等をやり取りし、利用者と共に地域行事や各種イベントに積極的に参加している。事業所の特筆点として、利用者一人ひとりの気持ちや個性、認知症状に寄り添い、個別のケア提供に多面的な検討と工夫を重ねている事が挙げられる。頻繁な外出や豊富な食の提供により、日々の生活が充実し、楽しみが増すように取り組んでいるが、状態により外出困難や食欲低下等の際も、その人の安楽や楽しみは何かを検討し、柔軟に残存機能を生かした支援を行っている。研修での学びは必ず実践に取り入れ、職員の気付きや発言を促す仕組みや、職員同士のプラス面のコミュニケーションカードを活用するなど、ケア技術の向上やチームケア重視の取り組みも特徴的である。更に、医療面でも訪問診療医を確保し、常勤看護師、系列施設の看護師の訪問など、日々の健康と終末期ケアでの安心できる体制も整えている。利用者は地域に密着し、家庭的な安らぎの場でその人らしく過ごしており、1ユニット9名の小規模の特性が生かされた事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中で過ごせるよう心掛けている。ホーム内数ヶ所に理念を掲げ月に一度唱和している。	地域密着型事業所の意義を踏まえた理念は、事業所内の要所に提示し、月1回朝礼時に唱和し、職員間で共有している。新人職員には、ケア場面の実践で伝え、事業所の目指す基本線の理解を促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の行事に参加したりホームのバーベキューにお誘いしている。散歩時も会話や挨拶をし合ったり収穫物を差し上げたり頂いたりしている。	町内会行事には利用者と共に積極的に参加し、近隣とも挨拶や相互の差し入れなどで交流を深めている。小・中学校の運動会や和太鼓演奏会なども楽しんでいる。事業所の広報誌を町内に回覧し、活動等を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として特別な活動はしていないが回覧板にホーム便りを入れてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しておりホームの活動や事故の内容、予防策を報告している。地域包括センターや町内会からの情報を聞いたり家族の意見を取り入れ反映させている。	会議は、家族や町内役員、行政職員や手稲区の介護同業者を迎え、定期的に開催している。デジタル画像で活動状況を報告し、事故やヒヤリハットは予防策も含め報告している。議事録を家族に送付し、会議への理解を図っている。	会議では、分りやすく現状報告をしているが、さらに多様な意見の聴取を工夫し、事業所の運営に活かす取り組みを期待する。また、地域住民の参加が少ない状況があり、参加の要請も期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者の件で密に連絡をとっている。札幌市GH管理者会議、西区GH管理者会・研修会に出席しており月に1度空室状況を報告している。	管理者は、今年度の市や区のGH管理者会議の代表を担い、行政とは密に連絡を取り合っている。また、各種報告事項や事故報告等の提出、生活保護課との連携などで、利用者が安心して生活できるよう協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で日常的に拘束になっていないかの話し合いをして確認し合っている。玄関は建物の構造上家族に了承の上施錠している。	身体拘束排除のマニュアルを整備し、外部研修、その伝達研修により拘束をしないケアの実践に努めている。利用者の心身の状況を考慮し、転倒予防などでは、拘束排除の視点と個別のケア提供を話し合っている。利用者は2階の居間で過ごす事が多く、目が行き届かない玄関は安全面を考慮して施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1名短時間の研修だが研修受講済み。来月研修報告予定。年2回接遇の自己チェック、面談は行っており防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学ぶ機会があったが活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が十分な説明を行い理解、納得をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが機能していない。苦情の窓口や機関の説明はしているが、なるべく普段から要望を伺ったり相談するようにしている。	家族とは、何でも話し合える関係を築きながら、意向や要望を聞くようにしている。事業所の行事への参加を呼び掛け、利用者や家族同士の交流の機会を作っている。更なる家族の意向の聴取に向けてアンケート調査を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回系列施設で運営会議あり。	年2回の人事考課を含め、会議や業務の中で、常時職員の意見を聞く機会がある。教育や広報などの各委員を通じた発言もあり、管理者はまずやってみてから判断する姿勢で、職員の意見を積極的に取り上げ、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給制度、寒冷地・年末年始手当有。人事考課制度導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は人事考課に基づいた内容の物3名受講済み、12月・1月で3名受講予定。系列施設の内部研修は月1回参加し研修報告をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は定期的にある。職員は以前西区GH内の研修や合同の行事の中で交流する機会があったが今年度はなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや要望を傾聴し理解に努め介護計画に取り込んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や計画作成担当者が中心となり、面会時や電話で要望を伺ったり相談したりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画に反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの出来る事、やりたい事をやって頂いている。一緒に行う中で良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出は積極的に促し何かあれば協力をしている。家族参加の行事もあり、家族と過ごす時間を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会は減っている。積極的な支援はしていない。	利用者の話を傾聴し、生活歴を把握するようにしている。地域からの入居や当地に関わりある利用者もおり、馴染みの店を利用し、神社の初詣や祭り見物、小学校での五天山太鼓を楽しむなど、馴染みの記憶を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係には意識している。食事の席の工夫や余暇の時はそれぞれが安心して楽しく過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に相談や支援に努めてはいないが系列施設に入居された方や近所の方もいるので交流はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを傾聴し関わりの中から状態や希望を推察し職員間で共有している。	発語が難しい利用者も多いが、関わりを多く持つことで、何気ない言葉や普段言わない言葉から気持ちを察している。表情の変化や家族の情報も得て、職員間で検討し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し家族や本人から情報を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況を観察し職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、本人、家族、職員の意見や要望を取り入れ介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心に、本人や家族、医師や看護師の意見、全職員の気付きを反映した介護計画を作成している。計画は、本人の残存機能を生かした自立支援を大切に、3ヵ月毎のアセスメントやモニタリングを通して現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言葉・行動を記録に記載し職員間で情報を共有しているが、話し合う時間をもっと増やしたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況によりその都度柔軟な対応が出来るよう心掛けているが、今現在そのような取り組みはしていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源の活用は減ってきている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いまいホームケアクリニックの往診を受けている方8名。それ以外の病院を受診している方1名。いまいホームケアクリニックは緊急時24時間対応しており特変時報告して指示をもらっている。	利用者の多くは、協力医療機関の月2回の訪問診療を受けており、かかりつけ医や他科の受診で家族対応が難しい場合は、職員が対応している。常勤看護師のほかに、週1回系列施設の看護師の訪問もあり、利用者の健康管理や適切な医療の受診を助けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の看護師や系列施設からの訪問の看護師に日々の状態を伝え相談している。往診の結果は記録に記載しているが介護職員と看護職員の間で連絡不足な事もあった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入退院は無かったが昨年度の入退院時は病院関係者との連携はとれており速やかに対応が出来た。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLが低下した時点で計画作成担当者を中心に家族の意向を伺い相談している。年に1回終末期についての確認をしている。	入居時に重度化した場合の指針を説明し、同意を得ている。年1回家族から利用者の終末期の意向を聞き取り、ADL低下の段階で随時家族とケアの方向性を話し合っている。24時間の医療連携を整備し、職員が研修を重ねるなど、終末期の支援体制作りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行われていない。今後研修の予定あり。伝達講習を行う。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や災害グッズ、非常食、避難場所の確認を行っているが全員は把握していない。12月中に災害時についての確認を全員に行う予定。	年2回昼夜想定避難訓練を実施し、消防署の協力を得ている。火災や自然災害に対するマニュアルを整備し、避難場所や非常食、防寒用品等の使用法を再確認をしている。	非常連絡網に地域メンバーの登録協力を得ているが、更に非常時では地域住民の協力が不可欠なので、避難訓練に住民への参加要請を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり受け取り方が違うので気をつけて対応している。接遇の自己チェックを年2回行いそれぞれが振り返る機会を設けている。	親しい中での馴れ合いを意識し、個別に合わせた言葉掛けや羞恥心に配慮した排泄ケアを工夫するなど、人格を傷つけないよう十分注意している。職員は接遇を学び、自分の対応や姿勢を点検し、振り返るプロセスを身に付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方が少なく困難な事もあるが配慮は出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを優先し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やアクセサリー等その人らしいおしゃれが出来よう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新しいメニューを取り入れたり、行事食や誕生日メニューは喜んで頂ける様に工夫している。外食も好みに合わせて行っている。	食事は、栄養面や旬の食材に配慮され、行事食や出張レストラン、漬物やおやつ作り、外食も取り入れ、彩りよく豊富なメニューで食の楽しみを提供している。食欲低下の状況では、食事時間や内容などを工夫し、食べる喜びを大切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態、水分量の確保に努めている。ご飯が進まない時に違う物を速やかに提供したり柔軟な対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕食後は全員行っているが昼食後介助をしているのは1名のみ。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し対応している。随時見直し検討をしている。	全員の排泄パターンを把握し、時間誘導等でトイレで排泄できるように支援している。身体機能に応じた自立排泄の検討をきめ細かく行う事で、布下着へ移行に繋がる場合もあり、自尊心を支え衛生用品の使用減にもなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取や下剤で調整しているが便秘の方もいる。速やかに医師に相談したり、便秘解消の体操も取り入れ始めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は固定しているが希望があれば随時対応する事は可能。	週2回程の入浴で午後の時間帯の括りはあるが、柔軟に変更対応している。羞恥心や恐怖心の心情を受けとめ、不安なくゆっくりと入浴できるよう、入浴や清拭の回数、二人介助などの支援の方法を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人に合わせた休息や睡眠を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録ファイルに処方箋を保管し全員がいつでも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自発的に行う方は少ないが趣味や特技を活かし役割を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物等は希望時に速やかに対応できている。それぞれのレベルに合った外出の支援をしている。	散歩や買い物、菜園の手入れ等は生活の一部となっている。全員の外出は難しいが、個々の状態や希望、習慣に配慮して、外出先や戸外での時間をきめ細かく調整している。文化祭や子供会バザーなどの地域の催し物、系列施設の祭りや弁当持参のピクニック、ドライブなど、積極的に外出の機会に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはこちらで管理しているが1000円以内で所持している方もいる。買い物時財布からお金を出してもらい支払いをしてもう事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1名のみ家族専用の携帯電話を所有。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が混乱や不快な思いをしない様に音や臭いに配慮している。居間の床や壁、浴室の改修工事了。	民家改造型だが、ゆとりのある広さが確保され、廊下の壁には季節毎の利用者の笑顔の写真が掲示され、利用者や訪れる人を和ませている。居間は窓越しに景観を満喫できる開放的な空間で、利用者はゆったりと過ごしている。居間や浴室の改修を終え、より快適な住環境に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが思い思いに過ごせるよう工夫している。居間はレベルや状況に合わせて随時ソファやテーブルの位置を変えて対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが馴染みの物や好みの物を持ってきており居心地よく過ごしている。	和室や洋室、中2階の部屋と設えに違いがあるが、各居室に収納スペースが備えられ、衣類などがすっきり整理されている。寝具やタンス、ぬいぐるみ等が持ち込まれ、居心地良く、安全に配慮した家具の配置を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	民家改修型の為段差が多く階段があるが手すりを使用しての階段昇降や貼り紙で出来るだけ自立して生活が送れる様工夫している。		